



「自然共生サイト」の仕組みと可能性

2024年1月31日

環境省中国四国地方環境事務所 山田 浩昭

昆明・モンリオール生物多様性枠組の構造

2050年ビジョン 自然と共生する世界

昆明・モンリオール 2050年ゴール

ゴールA 保全

ゴールB 持続可能な
利用

ゴールC 遺伝資源への
アクセスと利益配分
(ABS)

ゴールD 実施手段

2030年ミッション

必要な実施手段を提供しつつ、生物多様性を保全するとともに持続可能な形で利用すること、そして遺伝資源の利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を確保することにより、人々と地球のために自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

昆明・モンリオール2030年ターゲット（緊急に取るべき行動）

(1) 生物多様性への脅威の縮小

- 1: 空間計画
- 2: 自然再生
- 3: **30by30**
- 4: 種・遺伝子の保全
- 5: 生物採取
- 6: 外来種対策
- 7: 汚染
- 8: 気候変動

(2) 人々の需要が満たされる

- 9: 野生種の利用
- 10: 農林漁業
- 11: 自然の調整機能
- 12: 緑地親水空間

- 13: 遺伝資源への
アクセスと利益配分
(ABS)

(3) 実施・主流化のツールと解決策

- 14: 生物多様性の主流化
- 15: ビジネス
- 16: 持続可能な消費
- 17: バイオセーフティー
- 18: 有害補助金
- 19: 資金
- 20: 能力構築、技術移転
- 21: 知識へのアクセス
- 22: 先住民、女性及び若者
- 23: ジェンダー

サーティ バイ サーティ

30 by 30

- 2030年までに陸と海の30%以上を保全する新たな世界目標
- 2021年6月のG7サミット（英）において、G7各国は新たな世界目標に先立ち、自国内で30by30目標に取り組むことを約束
- 2022年12月にカナダ・モントリオールで開催された生物多様性条約COP15で策定された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において2030年ターゲットの一つとして位置づけられ、世界目標となった

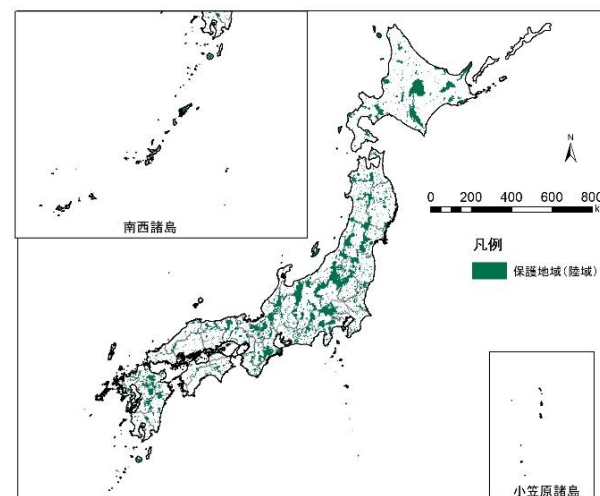
我が国の保護地域は

陸は20.5%

海は13.3%

(2023年3月現在)

- 2020年までの愛知目標（陸17%、海10%）は無事達成
- 2030年までに陸と海の30%以上を保全すべく、国立公園等保護地域の拡張と、OECDMの設定（自然共生サイト等）を進める。



【保護地域以外】で生物多様性保全に資する地域

Other **E**ffective area-based **C**onservation **M**easures

IUCNガイドラインでは、OECMを、そのアプローチの種類によって以下の3タイプに区分している。

タイプ1：一次的保全

- 生物多様性の保全を主な目的としているが、「保護地域」として扱われていないもの。

タイプ2：二次的保全

- 生物多様性の保全を主な目的としていないが、二次的な管理目的としているもの。

タイプ3：付随的保全

- 生物多様性の保全は目的としていないが、管理行為の副産物として域内保全に貢献しているもの。

◆OECEMの設定・促進

～Other Effective area-based Conservation Measures～



- **保護地域**は、国立公園など、保護等を目的とする規制対象の土地。
- **OECEM**は、**経済活動（里山における生業、農業等）で活用しつつ、一定の保全行為**が行われていることにより、**自然環境を守ることにも貢献**している地域。
- 日本版OECEMとして「**自然共生サイト**」の認定を開始。
- OECEMによる自然資本の保全と地域活性化等の同時達成を目指す。

OECEM（自然共生サイト）のイメージ



「自然共生サイト」の対象となる区域は、

例えば、

企業の森、ナショナルトラスト、バードサンクチュアリ、ビオトープ、自然観察の森、里地里山、森林施業地、水源の森、社寺林、文化的・歴史的な価値を有する地域、企業敷地内の緑地、屋敷林、緑道、都市内の緑地、風致保全の樹林、都市内の公園、ゴルフ場、スキー場、研究機関の森林、環境教育に活用されている森林、防災・減災目的の森林、遊水池、河川敷、水源涵養や炭素固定・吸収目的の森林、建物の屋上、試験・訓練のための草原・・・

といった場所のうち、生物多様性の価値を有し、
企業、団体・個人、自治体による様々な取組によって、本来目的に関わらず
生物多様性の保全が図られている区域

「自然共生サイト」の認定基準

- | |
|--------------------|
| 1. 境界・名称に関する基準 |
| 2. ガバナンスに関する基準 |
| 3. 生物多様性の価値に関する基準 |
| 4. 活動による保全効果に関する基準 |

「生物多様性の価値に関する基準」の具体的内容

| 以下のいずれかの価値を有すること | |
|------------------|---|
| 場 | (1) 公的機関等に 生物多様性保全上の重要性 が既に認められている場 |
| | (2) 原始的 な自然生態系が存する場 |
| | (3) 里地里山といった 二次的 な自然環境に特徴的な生態系が存する場 |
| | (4) 生態系サービス を提供する場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場 |
| | (5) 伝統工芸や伝統行事といった 地域の伝統文化 のために活用されている自然資源の場 |
| 種 | (6) 希少な動植物種 が生息生育している場又は生息生育している可能性が高い場 |
| | (7) 分布が限定 されている、 特異な環境 へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場 |
| 機能 | (8) 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、 動物の生活史 にとって重要な場 |
| | (9) 既存の保護地域又は認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、 緩衝機能や連結性 を高める機能を有する場 |

令和5年度前期の自然共生サイト認定事例



神戸の里山林・棚田・ため池
(神戸市／兵庫県) 181ha
里地里山に特徴的な生態系



細尾の棚田、池沼植物群落
(個人／兵庫県) 0.7ha
里地里山に特徴的な生態系



コウノトリ育む中筋の里地里山
(豊岡市／兵庫県) 56ha
里地里山に特徴的な生態系



鳥取県八頭船岡環境保全エリア
(社団法人・農事法人／鳥取県) 18ha
里地里山に特徴的な生態系



南部町の里地里山ビオトープ
(社団法人／鳥取県) 16ha
里地里山に特徴的な生態系



橋本山林 (経済性と環境性を高い次元で
両立させる自伐林業による多間伐施業の森)
(NPO法人／徳島県) 113ha
森林施業と生物多様性を両立

- 昆明・モンリオール生物多様性枠組において、「**ネイチャーポジティブ**」の概念が位置付け。
- 自然情報に関する財務情報の開示（**TNFD**）が**スタンダード**に。（リスクへの事前対応）



多くの民間企業は**ネイチャーポジティブ**領域における**事業機会**を積極的に探索。



地域の社会課題解決に向けて企業を含む多様な主体の連携促進が重要



- 里地里山における社会経済的課題と環境的課題を統合的に解決
- 活動場所は自然共生サイト候補であり、企業・事業主体と地域を繋ぐ場所

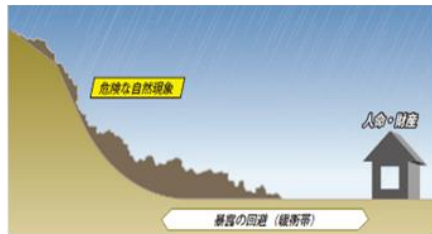
生物多様性・自然資本で「守る」～Eco-DRR～

- 災害から人命・財産を守り、
攪乱環境の保全により多様な生物を育み、
相乗効果をもたらす **Eco-DRR** (Ecosystem based Disaster Risk Reduction)

人命を守る

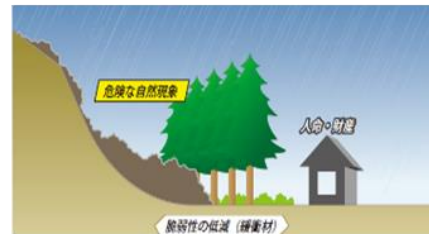
暴露の回避

- 自然災害に対して脆弱な土地の開発を避け、生態系の保全と再生を図る



脆弱性の低減

- 生態系を物理的な緩衝として、危険な自然現象を軽減
- 暮らしを支える基盤として社会の脆弱性を低減



多様な生物を育む

生物涵養

- 氾濫や土砂崩れが頻発するかく乱環境を好む希少な生物が多数存在



自然資本の活用（観光、健康・癒し、教育等）

■風土に育まれた特徴ある豊かな自然は、観光や自然体験等のサービス、食文化の源泉、教育の場、癒しの場など、アイデア次第で様々な活用が可能。



コウノトリと少年



コウノトリ育むお米



資料提供：兵庫県豊岡市



出所：自然保護協会



出所：自然保護協会



自然共生サイト 細尾の棚田で生産されたシイタケ

生物多様性のための30by30アライアンス

30by30をみんなで進めていくための有志連合

- 環境省を含めた産民官17団体を発起人とする「**生物多様性のための30by30アライアンス**」を2022年4月に発足。
企業、自治体、NPO法人等、計660者が参加(2024年1月5日現在)
- 自らの所有地や所管地内のOECM登録や保護地域の拡大を目指す/そうした取組を応援するなど、**30by30の実現に向けた行動をとる仲間たちの集まり**。
(自治体：島根県、徳島県、鳥取県、兵庫県豊岡市など52団体)
(企業：トヨタ、イオン、パナソニックなど326団体)

参加方法とその効果

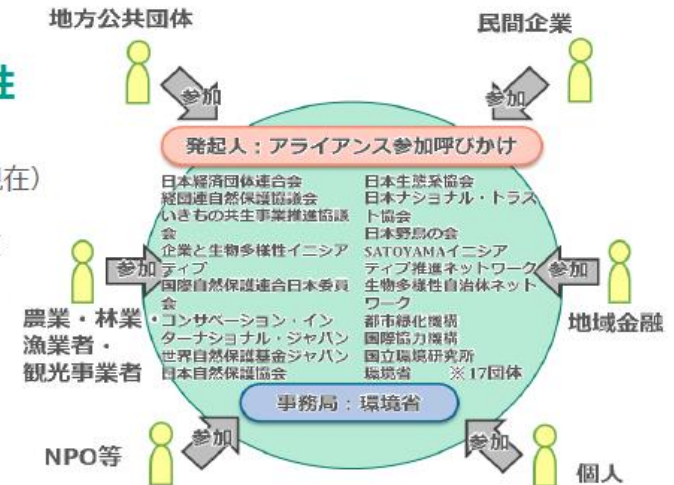
- 参加希望者は、自ら行おうとする取組を事務局に登録(※随時受付)
- 参加による効果は以下のとおり。

- 参加者をWebサイト上に掲載し、その**取組を発信**
- **自然共生サイトの申請**を支援
- **ロゴマーク**を使って取組をPR 等



30by30アライアンスサイト

- ・参加者一覧を掲載
- ・自らの取組を掲載可能
- ・将来的にはマッチング機能も検討



30by30アライアンスロゴ

モチーフとしてカエルを採用し、その中に森や海といった自然やそこに住むいきもの、さらには都市や舟など人々の生業を配置。カエルの体部分(上部)は森林など陸域をイメージした緑基調の和紙、顔の部分(下段)は、海や川など水域をイメージした青基調の和紙で表現。